

平成18年3月20日
第7回気象分科会資料

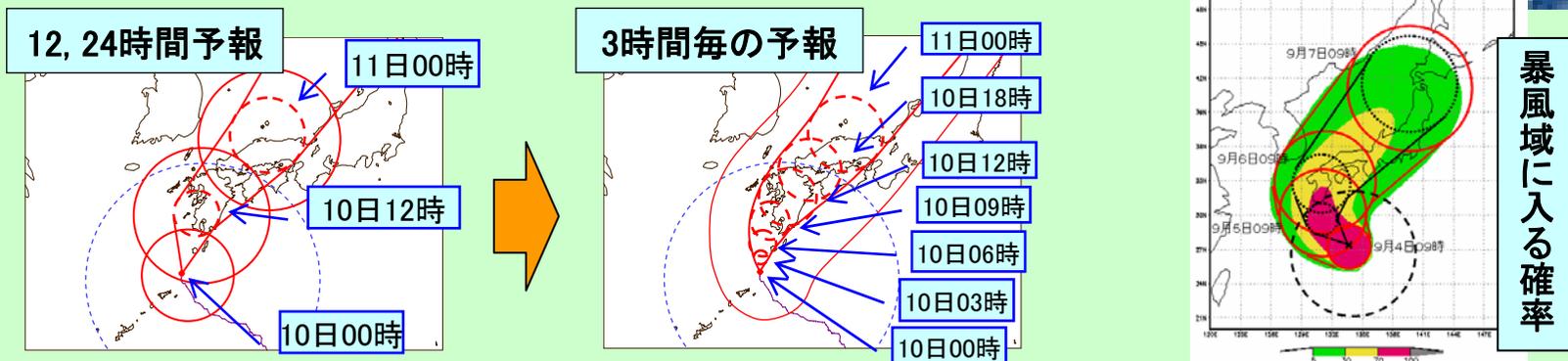
台風予報の改善について

気 象 庁

1 台風予報の改善計画

平成19年台風シーズンまでに改善

- 台風の進路を細かな(12→3)時間間隔で予報
- 暴風域に入る確率の面的情報
- 台風予報の図表示の改善



- 最大瞬間風速に関する情報を追加して発表

- 台風から変わった温帯低気圧に関する情報も、台風に合わせて発表

技術開発の状況を踏まえ
中期的(3~4年程度)に改善

- 「台風時における雨や風に関する分布情報」
- 「5日先までの台風予報」

2 台風予報の図表示の改善

背景

台風の予報技術が向上。
台風予報の情報内容が充実(3時間刻みの台風予報など)。

目的

台風防災に必要な情報を国民に誤解なく、わかりやすく、迅速に伝え、的確な防災対応を支援。



【台風予報の図表示方法の指針】

マスメディアで台風予報を図表示する際の一定の考え方を示す。

3 台風予報の図表示方法の現状



【実況部分】

- 暴風域 (25m/s以上の風の領域)と強風域 (15m/s以上の風の領域)を円で示す
- 台風の中心位置を点で示す

【予報部分】

- 予報円 (台風が中心が70%の確率で入ると予想される領域)を破線で示す
- 各予報円を接線で結ぶ
- 暴風警戒域 (中心が予報円に進んだ場合に暴風のおそれがある領域)を実線の円で示す
- 予報円の中心点の印や中心点を結ぶ線は表示しない

気象庁では、上記の表示方法に基づいて、気象庁ホームページ等で台風予報を発表している。また、報道機関等でもこの表示方法が使われている。

上記表示方法は、以下の要件を確保することを基本としている。

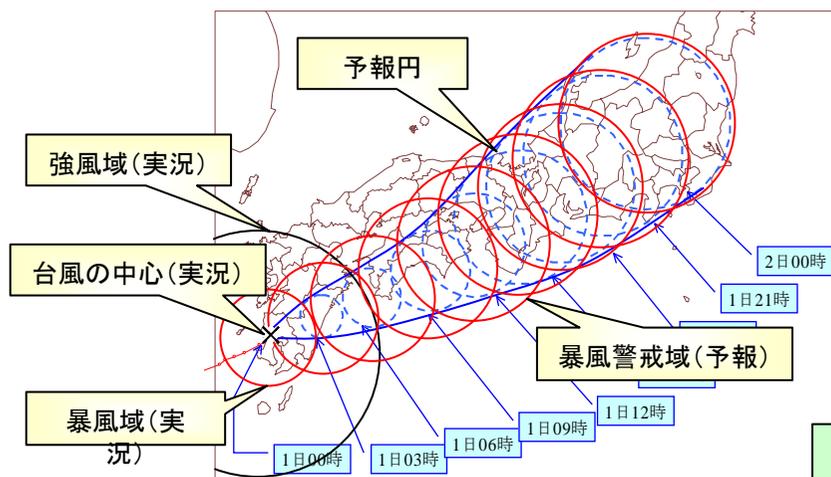
- 暴風に対して警戒が必要な範囲を示すこと
- 台風進路予報の誤差の範囲を示すこと
- 予報対象時刻を明示すること
- これらのことを誤解なく、わかりやすく表示すること

4 新しい図表示方法の指針(案)

基本的要件	具体的指針	
①暴風に対して警戒必要な範囲を示すこと	(実況部分) 台風の中心位置(×印)、暴風域、強風域を表示する	
	(予報部分) 暴風警戒域を表示する	
②台風進路予報についての誤差の範囲を示すこと	予報円を表示する	
③予報対象時刻を明示すること		
④①～③のことを誤解なく、わかりやすく表示すること 特に、複数の対象時刻の予報を1枚の図にまとめて表示する場合	暴風警戒域を実線で、予報円を破線で表示する	
	各時刻の予報円に接する線を実線で表示する	
	予報円・暴風警戒域が込み合う場合	一部時刻の予報円・暴風警戒域を省略できる
	さらに、暴風警戒域が込み合う場合	各時刻の暴風警戒域の円の表示に代えて、暴風警戒域の通過する範囲を実線で表示できる
	付加的な情報を表示する場合	予報円の中心点を表示できる 予報円の中心点を結ぶ線を破線で表示できる ただし、台風の中心がこの点や線上を進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行う

※「暴風域に入る確率の面的情報」は、上記の図表示の追加的情報とする。

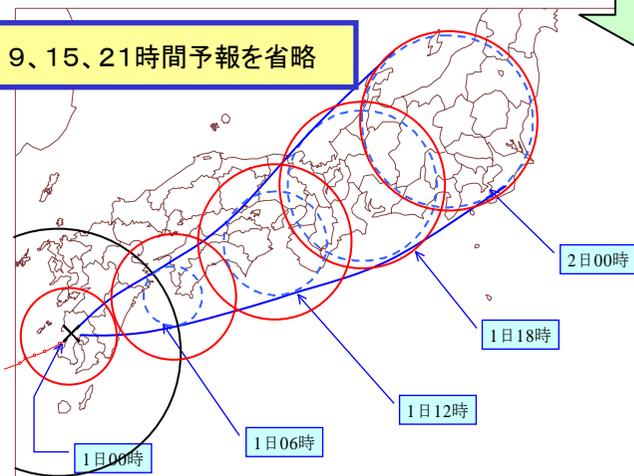
5 予報円・暴風警戒域が込み合う場合の例



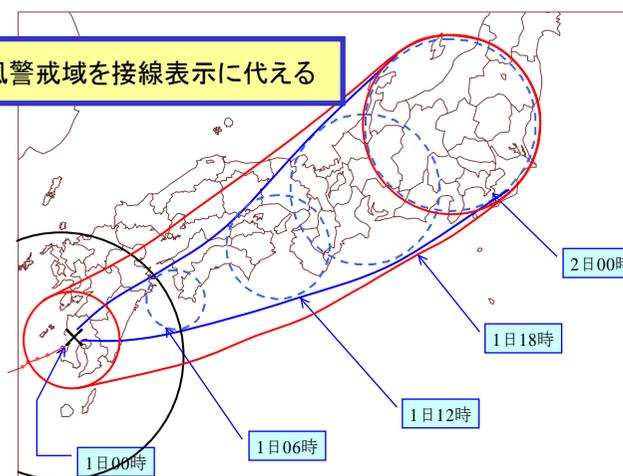
防災上伝えるべき情報をすべて表示

- (実況部分)
○台風の中心位置、暴風域、強風域
- (予報部分)
○予報円(各時刻の円とその接線)
○暴風警戒域(各時刻の円)

例: 3、9、15、21時間予報を省略



暴風警戒域を接線表示に代える



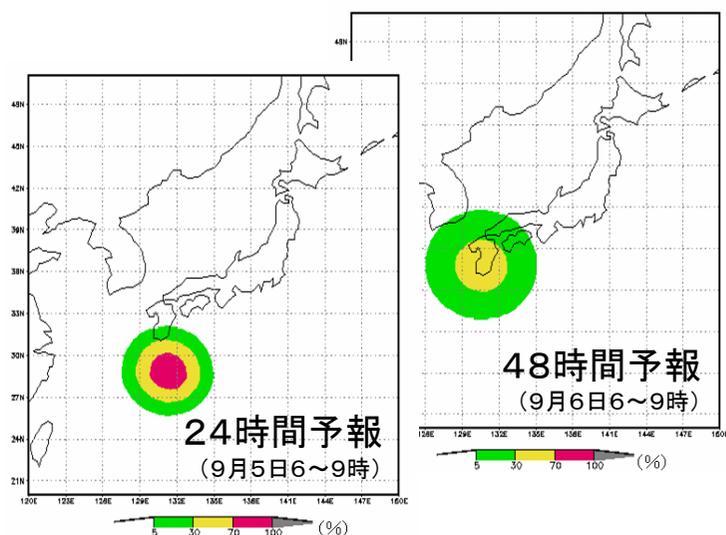
予報円及び暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、一部時刻の表示を省略できる。

さらに暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、暴風警戒域を接線で表示できる。

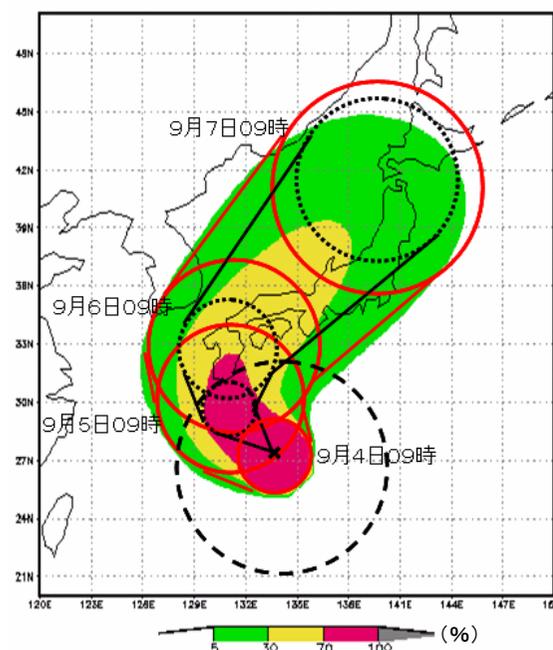
6 「暴風域に入る確率の面的情報」の利用

台風時における細かな防災対応判断を支援する情報として、「暴風域に入る確率の面的情報」を提供する。

①72時間先までの 3時間刻みの時間帯毎の情報



②0時から72時間先まで積算した情報 (1枚の図に表示する場合に利用)



0時から72時間先まで積算した情報利用にあたっての留意点

- 当面、暴風警戒域を用いた図表示の追加的情報として表示する。
- 予報対象時刻が後になるほど確率が低くなるのが、台風の勢力が弱まるとの誤解を招かないよう、適切な解説を行う。